

第1回 第4期高砂市地域福祉計画策定委員会 議事録

日時：令和4年7月29日（金）午後1時30分～

場所：ユーアイ帆っとセンター1階 交流スペース1・2

1. 開会

2. 委嘱式

3. 市長あいさつ

副市長代読

4. 委員紹介

5. 委員長及び副委員長選出

6. 議題

(1) 第4期高砂市地域福祉計画の策定に向けて

(2) 第3期高砂市地域福祉計画の振り返り

事務局 (1)、(2) について説明

委員

地域福祉を充実させていく上では、地域包括ケアシステムのやり方はあまり大きなものではなく、小さな区画でやっていく必要があると思う。

また、支え合いづくり協議会について、「進みつつある」という評価だったが、なかなか取り組みが進んでいないところもある。地区毎にやり方も違っていると思うが、市としてもっとしっかりと進めてもらいたい。

委員長

各協議会で何をしているのかを共有する必要もある。その中で、取り組みの共通項などを見出していくこともできる。

委員

医師会の立場から申し上げる。以前から、市で認知症サポーターをたくさん養成されていると思うが、認知症サポーターの方がせっかく何かしようと思っても、そういう組織づくりが進んでいないようだ。現在のサポーターの活動状況などはどうなっているのか。

事務局

認知症サポーター養成講座の通算受講者数は9,720人だが、活躍のための講座の実施には至っていない。チームオレンジについては、本年度は市内で2つのモデル地区を設定予定。その構成メンバーとしてサポーターにも入ってもらい、地域で活動する仕組みづくりを進めていく。

委員

サポーターが9,000人もいっちゃったら、おそらくは将来の担い手、いろいろな事業の担い手の卵となる方々だと思う。今後の担い手として大事にしてほしい。

委員長

市の人口9万人で9,000人なのでそれなりにいる。認知症サポーターの活動の場については、どこの自治体でも課題になっている。活動の場をどうつくっていくか、そこへどう導いていくかについてもしっかりと考える必要があり、5～10年後をどう見据えて活動していくかも重要となる。

委員

資料を読み、いろいろな取り組みやその達成状況、アンケートなどをから、非常に正確な分析をしておられるのはよくわかった。

資料の中に「福祉避難所設置・運営訓練の実施」という記載があり、市長懇談会でも今後も増やしていくとのことだった。これまでは文化会館の1つだけだったが、今回は3つの高齢者施設が福祉避難所として追加された。

しかし、追加した3つについては、該当する施設の利用者に限るとなっていた。そうなると、結局これまで通り、福祉避難所は文化会館1つであり、そこは定員80人。市内の障害者4,500人は、どこの福祉避難所に避難することになるのか。災害弱者の支援については、行政にはもっと真剣に取り組んでほしい。

事務局

福祉避難所については、まず現状として受け皿が足りていない。小学校の空き教室や公民館などを福祉避難所として位置付けるような方法を早期に考えていきたい。今後は全庁的に取り組むべきところで、できるだけ受け皿の確保という形で動いていきたい。

委員

参考として、播磨町では1～2年前に市内小学校を活用して、11箇所の指定避難所をつくっている。高砂市ももっと真剣に教育委員会も含めて話をしていかなければ、何年やっても話は進まないと思う。

委員長

この件については、実際、何人の方の分が必要なのか、その方々はどの辺りに住んでいるのか、避難を考えた時にどこへ行けそうなのかなどを数字として相当緻密に考えていく必要がある。市はせっかくデータを持っているので、そのようなところから検討していく必要がある。

(3) 第4期高砂市地域福祉計画のフレーム（基本的な考え方・施策体系案）

事務局 (3) について説明

委員

私も「支え合いづくり協議会」の開設を2年半くらいかけて準備し、やっと開設したところだが、やはり組織づくり、そして人づくりを重点的に取り組むべきと思っている。しかし、地域に根差した人材が少なく、60～70歳代が協議会を動かしている。アンケートの結果の通り、多く人は「時間がない」「関心がない」ということ。

地域活動は60～70歳代が動かしている状態で、若い力を入れたいが、祭りには参加するが、地域活動には参加してもらえない状態。

支え合いづくり協議会が、何か細かい取り組みを実施するということではなく、各小地域の取り組み・活動をいかにまとめて課題の解決をめざしていくかが重要となる。現在、人づくりに悩んでおり、第4期計画では、人づくりを重点的に進める必要があると思う。市として何か解決策はあるのか。

事務局

第4期でも継続して、その人づくりのところを重点的に今後も検討していきたいと考えている。また、現状ではこれといった解決策はない。今後、検討していく必要がある。

委員長

若い人でも地域に愛着はあるが活動に参加する人は少ない。これは、生活、金銭的に地域の活動に参加する余裕がないということも考えられる。一概にこうしたらよいということではなくて、なかなか難しい問題。

第4期計画案では、第3期で7つあった基本目標を2つにまとめている。この基本目標について、この部分は外に出して、重点的にやっていかないといけないのではないかとということも含めて、皆さんからご意見をお願いしたい。

委員

人づくりのことなどについては、社協が市から委託を受けている「支え合い協議会」や福祉委員制度をはじめとした住民主体の地域福祉づくりを進めていく中で、市としっかりと協議をしながら進めていきたい。

地域福祉計画について、ガイドラインにある「共通して取り組む項目」は10月委員会の素案で提示されるということか。また、第3期計画で包括的な支援体制づくりが重点として掲げられており、次期計画でも外せないと考えているが、その点について事務局のお考えをお聞きしたい。

事務局

今後、ガイドラインにある「共通して取り組む項目」を踏まえて素案の作成を進める。また、包括的支援体制については、基本目標2の2) 3)などで反映していく。

委員長

基本目標は2つで大丈夫か。人づくりについては、基本目標として設定してはどうかと思っている。担い手というところに関して、地域活動の担い手という側面と、包括的な相談支援体制という専門職の担い手という側面になり、ここを基盤としてないと、おそらく、その上の地域づくりも相談支援体制づくりも形骸化してしまう。

委員

大きく言うと、日本はすぐ箱づくりに一生懸命になり、箱をつくったらそれで終わりとなってしまいが、委員長が言われたように、いちばん肝心な「人」がどこかに飛んでしまうという思いがあり、計画にきちんと「人づくり」というものを入れていただければありがたい。

委員

第4期のフレームについては、非常にきれいにまとまっているが、「人をつくる」「担い手をつくる」という言葉を基本目標に入れるか、附則で入れるのか。どこかに次の担い手をつくるシステムを入れないと、いつも「できませんでした」「次の担い手が誰もいない」ということになる。どこかに「人づくり」という文章があってもいいのではないか。

委員長

次回素案が出てくるまでに、骨子案のところをもう一度叩き直すために、皆さんが集まるのはなかなか難しいと思うので、郵送などの形でご意見をいただくような機会を設けて頂き、進めていくようにする。

委員

ボランティアについては、コロナの影響で取り組みを計画しては中止の繰り返しの状態である。

市内にボランティアグループは40くらい、個人の方でも40~50の方がおり、ボランティア関係者は700人くらいにはなるが、みなさんがどんな活動をしているのかがわからない。詳しくはホームページでと言われてもわからない。少なくとも、何をやっているかについては、知らせる必要がある。また、ボランティア同士でも、あまり活動などについて評価し合わないので、物足りないと思うこともある。

ボランティア活動も高齢化しており、男性の活動者も減少しているが、まずは、まわりの人がどんなことをやっているのか、ボランティア同士や市民も知ることが必要だと思う。

委員長

確かにホームページは便利だが、そもそもホームページにどうやってアクセスするのという層は必ずいらっしゃる。

すべてをICT化して効率化という話ではなく、例えば、回覧板も活用しながら、改善もしていくことが必要である。0か100かで考えるのではなく、どうアップデートしていくのが重要であり、これは先ほどのご発言にもあった評価にも関連することになる。

委員

今回の参考資料は非常によくできていると感心しているが、その中でめざす高砂市のイメージの達成状況は、結構、詳しく書かれている。

第4期計画をつくるにあたって、例えば、障害福祉計画では、「令和何年度までにはどうする」という目標を設定しており、地域福祉計画も難しいかもしれないが、例えば、重点的な取り組みについては、もう少し具体的な目標などの記載があれば、我々もわかりやすいし、行政との話もしやすい。

委員長

確かに、単年度ごとの目標みたいなもの設定は必要かと思う。委員がおっしゃったように、重点項目に関しては、例えば、単年度なのか、2年度ごとなのか、また中間点なのかなど、少しスパンを短めにして、目標を立てられるようなものがあれば、そういうことを検討していただいてもいいのかと思う。

これは、必ずやってくださいという話ではなくて、目標を立てられるものがあるかどうかをまず検討して頂き、立てられるものがあつた場合に、どのように設定するか検討して頂きたい。

事務局

本日いただいた意見などを検討し、意見を踏まえ骨子案を作成する。骨子案を皆様に郵送させていただき、それについてのご意見をいただく。そして、ご意見を踏まえた骨子から素案を作成し、第2回の策定委員会で素案をご議論いただくような形にしたい。

7 その他

事務局

次回の会議日程については、10月以降に開催を予定しており、日程については、後日改めてご連絡する。

委員

医師会として災害時・緊急時の医療の担い手について協議したいと市に申し入れしているが、なかなか対応してもらえない。事故や災害などが起こった時の、医療従事者などの受け入れを医師会や自治体が采配しないといけませんが、高砂市は協議もしておらず、医師会としてどうしたらよいかはまったくない。まずは、協議の場について頂きたい。この委員会で言うのは何だが、せっかく「緊急時・災害対策の充実」ということも計画にあるので、ぜひお願いしたい。災害時等の対応について、非常に危機感を持っている。

委員長

どの専門職も地域に対して非常に関心、想いが強くなってきている。医療のディーマットとともに、福祉のディーマットというものもあるが、実際に動き始めた時、被災地の自治体に相談に行くべきなのか、それぞれの職能団体の支部に行くのか、なかなか分からないところがある。高砂市が先頭をきって何をするのか分からないが、こうやって受け付けるというものがあれば、医師会としての負担も

変わるし、職能団体もそれぞれ負担が変わると思う。そこのルートというのは今一度、整理をしていただく必要が出てくるかもしれない。

委員

資料に初めて「地方再犯防止推進計画」という言葉が出ており、今後、どのような文言が入るのか、楽しみ部分と興味を持ってこれから参加できる。

委員長

特に更生保護の分野は、これから注目を集めるというような話ではないが、重要になってくる分野である。更生保護を地域社会ベースで考えていくということは、極めて重要になってくると思う。

実は、大学で養成している社会福祉士の課程においても、更生保護の部分が増えてきており、そういう意味では保護司の方と一緒に何かをやっていくという機会も出てくると思う。

副委員長

4月に高砂市保護司会の窓口を地域福祉課で受けていただき、それに伴い「地方再犯防止推進計画」を立てたいという願いのもとに、本日の資料が出てきたということは非常にうれしく思っている。

更生保護というのは立ち直りを支えるということだが、我々保護司だけではどうにもできない。市民の皆様も行政もそれぞれが手を携えて、この計画を基に罪を犯した方々が社会復帰できるよう、支える力をいただきたいと思います。

8 閉会